



学校だより

No.555

令和 6年 1月9日
練馬区立田柄第二小学校
校長 岩井 一 雄

教育目標 : 元気な子ども ・ 考える子ども ・ 思いやる子ども

辰年を迎えて

校長 岩井一雄

新たな年を迎え、保護者・地域の皆様をはじめ、関係するすべての方々に、謹んでご挨拶を申し上げます。令和6年が 皆様にとりまして幸多き年となりますよう祈念いたします。

今年は辰年です。辰とは竜(龍)のことですが、十二支の中では唯一、空想上の生き物です。なぜ架空の動物が干支の中にはいつているのか、この冬休みに調べてみました。

古代中国 殷の時代に干支が定められたとき、それは木星の軌道上の位置を示すものだったそうです。もとも動物とは何の関係もなかったわけですが、後漢の時代に民衆にも干支を周知させたいと考えた王充という文人が(干支に)身近な動物の名をあてはめたということです。もちろん、その頃に竜が実在したのかといえ、そうではありません。しかし、当時中国では麒麟、鳳凰、霊亀、龍の4種の霊獣の存在が信じられ、力の象徴として崇拝されて今よりずっと身近なものだったそうです。

日本でも出世や飛躍の願いや縁起を込めて、人名や寺号、地名などに龍の字が入っている例がみられますし、みなさんも、「力強い」「勇ましい」あるいは「運気が上がる」といったイメージを思い浮かべることが多いのではないかと思います。

一方、竜にまつわる諺や故事成語もたくさんありますが、「竜頭蛇尾(りゅうとうだび)」とは初めは勢いがあるが、終わりが振るわないこと、「画竜点睛(がりょうてんせい)を欠く」とは最後の肝心な部分が抜けているため、不完全な状態にあることを言います。

今年の抱負に重ねて言えば、竜頭蛇尾に終わることなく、画竜点睛を欠くことなく、竜が水や雲、翼を得るように、皆が持てる力を十分発揮して飛躍する年にしていきたいと思いを新たにしています。

さて、三学期に立てる目標には二つの意味合いがあります。一つは、「三学期、何をやりとげるか」ということ。もう一つは、新たな学年、少し遠くの未来に向けて「今年はどうしていこうか」とい新たな夢や希望を叶えるために目標をもつことです。努力を継続していくこと、新たな目標を立て、将来への願いを叶えるための志を新たにすること、ともに大切にしていきたいと思います。

三学期は子供たちが現在の学年で培った力をそれぞれの場で表現する時期であると同時に、今年度を振り返り、身に付けてきたことをさらに定着させる時期です。1日1日を大切にしながら、子供たちの願いが叶えられるように令和6年、教職員一同 尽力してまいります。保護者の皆様、地域の皆様、関係するすべての皆様方には、今年も本校の教育活動にご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

1月の生活目標 「気持ちのよいあいさつをしよう」

「おはようございます」を発する人がいて、受け取った人がお返しの「おはようございます」を発信し、はじめに発した人が受け取ります。気持ちのよいあいさつをするためには、発する人と受け取る人の両方の気持ちが、明るく健やかであることや、あいさつを発する人と受け取る人との両方が、「互いを思いやる気持ちをもつこと」が大切になります。ご家庭でも、「あいさつ」について考える機会があるとよいと思います。